

## 科目概要

科目名	実践経済学Ⅴ「ソーシャル・インパクト・ボンド基礎概論」(後学期)
授業内容 と方法	<p>近年、医療・教育・就労・福祉などの社会課題の解決に向けて、「社会的インパクト投資」と呼ばれる新しいお金の流れが世界的に広がっています。これは、単に経済的な利益だけでなく、「社会課題がどの程度解決されたか」という社会的な成果も重視する投資の考え方です。</p> <p>本科目では、まず社会的インパクト投資の基礎を学んだうえで、その代表的な手法の一つであるソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)を取り上げます。SIBは、行政・サービス事業者・投資家など多様な主体が連携し、「成果(アウトカム)」に応じて支払いが行われる仕組みであり、サービス提供だけでなく、その結果として社会課題がどの程度改善したかを評価する点に特徴があります。</p> <p>例えば、投資家から資金を集めた事業者が、がん検診受診率を高めるサービスを実施し、受診率の向上と早期発見が実現した場合、その成果を第三者が客観的に評価します。あらかじめ行政と合意した成果目標を達成したと認められれば、行政が投資家へ配当を含めて支払いますが、成果が出なければ支払いは行われません。</p> <p>授業では、SIBの基本的な仕組みや最新動向を学ぶとともに、身近な社会課題をテーマにグループワークで調査・検討を行い、ロジックモデルや評価モデル、事業モデル、財務モデルなどを順に作成していきます。これにより、複雑化する社会課題に対して、多様な関係者を巻き込みながらプロジェクトを進める力、社会課題を分析し成果を評価する力、新しい投資手法を理解し活用する力を養うことを目標とします。</p> <p>授業は、学生と社会人がグループでディスカッションやワークに取り組むアクティブラーニングを基本とし、オンライン(Zoom)と対面を組み合わせ実施します。グループ内外のコミュニケーションにはSlackを用い、講義と実践的なグループワークを行き来しながら学びを深めていきます。</p>
授業計画	<p><input type="checkbox"/>Zoomを用いたオンラインで実施します。 <input type="checkbox"/>グループのコミュニケーションツールとして「Slack」を用います。</p> <p>第1日(土)【第3時限～第5時限】 第1回：オリエンテーション 第2回：インパクト投資の潮流およびソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)概要 第3回：テーマ設定とテーマ別グループ編成</p> <p>第2日(土)【第3時限～第5時限】※対面授業 第4回：テーマに関するレクチャー等 第5回：社会的インパクト・マネジメント概要 第6回：ワークショップ(ロジックモデル)</p> <p>第3日(土)【第3時限～第5時限】 第7回：ワークショップ(評価モデル) 第8回：ワークショップ(事業モデル) 第9回：ワークショップ(財務モデル)</p> <p>第4日(土)【第3時限～第5時限】 第10回：ワークショップ(SIB導入全体) 第11回：ロールプレイング 第12回：プレゼン準備—1</p> <p>第5日(土)【第3時限～第5時限】※対面授業 第13回：プレゼン準備—2 第14回：プレゼンテーション報告会 第15回：まとめ・振り返り</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社ケイスリー代表取締役の幸地正樹氏を講師に招き、日本最新の「ソーシャル・インパクト・ボンド」についての授業を開講します。</li> <li>・また、研究共創機構が取り組む社会人向け科目履修プログラムとして、自治体、NPO法人や企業等の社会人に本プログラムを提供します。</li> <li>・本科目は「初級地域公共政策士」資格取得のための履修証明プログラムの対象科目(選択必修)です。</li> </ul>

# 科目概要